

学会記事

◎第4回理事会(昭.33.9.17)出席者:本間副会長,高野,藤村,国分,小野,野田の各理事。議事:1)8月中の行事その他報告,2)中川書記長の死去について,3)コンクリート常置委員会の構成を次のとおり決定,委員長 吉田徳次郎君,副委員長 国分正胤君,委員(無筋)石黒 健,岡部 保,小林一輔,杉木六郎,土岐高史,塚山隆一,野口 功,樋口芳朗,丸安隆和,三浦一郎,水野俊一,村田二郎,山崎寛司,山田順治。(鉄筋)岡部達郎,神山 一,川口輝夫,小寺重郎,後藤幸正,深谷俊明,松本嘉司。(道路)浅井新一郎,伊東茂富,岩間 滋,竹下春見,谷藤正三,藤原 武。(ダム)河原友純,佐々木和彦,関 慎吾,太斉壮一,永倉 正,西沢紀昭,畑野 正,藤井敏夫,堀 和夫,山村 勤の各氏を委嘱すること,4)会誌文献調査会委員 垣中三樹男君の後任に片山猛雄君を委嘱すること,5)土木工学ハンドブック改訂出版契約案を原案どおり承認,6)講演会および講習会の計画について,7)編集部よりの要望事項について,8)8月中の会員入退会承認。

◎各種委員会

1. 第4回会誌編集委員会(昭.33.9.18)出席者:田原委員長,諫山,栗津,伊東(代坂口),南部(代水野),南,尾崎,奥村,田村の各委員,深谷幹事。議事:1)新規投稿原稿審査委員の決定,2)原稿審査報告,3)依頼原稿の件,4)学会誌投稿規定案について,5)43巻11号登載原稿を次のとおり予定した。

丹羽義次・森 忠次:英国型原子炉の構造と土木工学上の課題,桂川輝長:船台工事における海面締切工法について,遠藤篤康:上路式溶接プレート ガーダー道路橋における主桁数と床組との配置,嶋津公一:Jaeger理論による取水トンネル一調圧水槽一水圧鉄管系の検討,佐藤友光:発電水力講座(Ⅱ)鋼構造物。

2. 第4回会誌編集小委員会(昭.33.9.5)出席者:田原委員長,田村,荒井(代松浦)の各委員,深谷幹事。議事:1)地方委員の分担について,2)口絵写真について,3)43巻10号について最終的な決定を行なった(84ページ)。

3. 第4回会誌文献調査委員会(昭.33.9.3)出席者:樋口委員長,小池,津野,佐藤,片山(代),高秀,野口の各委員,高橋幹事,御粧氏(科学技術情報センター)。議事:1)43巻10号登載の文献抄録および目録の選定,2)垣中委員転任のため後任に片山猛雄氏(運輸省港湾局建設課)を推薦,3)高橋幹事渡仏のため,新幹事として矢島委員に依頼決定,4)抄録委員会は文献調査委員会と改名されたことを了承,5)その他。

4. 第2回定款改正特別委員会(昭.33.9.11)出席者:

本間委員長,高野,西嶋,井口,渡辺(代西亀)の各委員,豊田幹事。議事:定款第16条,第18条の改正案について協議した。

5. 第2回論文集各部署委員会(昭.33.9.12)出席者:
第1部会 高田部会長,奥村,松崎,田島,山口の各委員。
第2部会 竹内,栗津,伊藤,原口,千秋,松田,井島(代)の各委員。
第3部会 後藤部会長,三木,西亀,竹下の各委員。
第4部会 友永部会長,黒河内,渡部,村山の各委員,徳平幹事。

議事:1)各部会ごとに審査報告および新規受付原稿の審査委員の決定,2)次回編集部会を11月7日(金)に予定,3)その他。

6. 第2回論文集部会長会(昭.33.9.19)出席者:国分編集部長,友永委員長,高田,佐藤,後藤,山口,嶋,三木,田島,渡部の各委員,徳平幹事。議事:1)各部会報告,2)論文集60号(34年1月発行予定)登載予定原稿決定,3)59号・別冊論文として3編の出版を予定した,4)その他。

7. 第1回ハンドブック改訂委員会(昭.33.9.15)出席者:小西,最上,本間,福田,国分,田中,平井,友永,田原,小野木,逸見,清水(代西嶋),松井(代奥田),川村,崑山,扇田,大野,高木,加納,藤井,高畑,ほかに学会,出版社職員5名。議事:(1)委員長選定;満場一致で,福田武雄氏を委員長に推薦した。

(2)改訂方針;1)前回(8月8日)の打合せにおける申合せ事項を国分委員が説明した,2)あらかじめ用意された執筆要項について審議し,大体において原案を承認した,3)技報堂との間の契約書案を原案どおり了承し,理事会の決裁を求めることとした,4)改訂,増補の原稿の提出は来年3月までとし,出版は6,7月を目標とする。(3)主査と専門委員;1)主査または執筆者が新しくなった部門の場合は,前主査,前執筆者に対して学会から諒解をうること,2)前回(8月8日)の連絡には,専門委員(訂正者,執筆者)の選定について不明の点があつたので,あらためて各主査から選定の結果を学会に連絡すること,専門委員の人数は制限しない,土木学会々員以外も認める,3)改訂版には,前主査,前執筆者の氏名も掲載する。(4)この委員会の幹事は,仕事の進行状況にしたがつて後日に選定する。(5)改訂版を分冊出版(2分冊,4分冊等)にすることは,改訂増補の程度によつて計画する。(6)その他;1)いままでの読者の意見をまとめて配布する(出版社から),2)執筆要項に具体的の例を付し,なお,当用漢字,かなづかいを添えて配布する(出版社より),3)各部門別の会合は任意に行なう,ただし,そのつど学会に連絡すること,4)次回を10月下旬と予定し,

それまでに各部門の予定ページ数を計画し持ちよる。

8. プレストレストコンクリート小委員会(昭.33.9.16) 出席者: 国分, 川口, 宮崎, 中島, 猪股, 三浦, 木村, 海上(代誌島), 西沢, 菅原, 野口, 小寺の各委員。協議事項: 1) プレストレストコンクリート設計施工指針改訂のため, 委員および関係業者 28 社に意見を求め, 提出された意見の内容について協議した, 2) 各分担の主査選定について協議した。

9. プレストレストコンクリート設計施工指針設計部門小委員会(昭.33.9.25) 出席者: 国分, 田原(主査), 川口, 猪股, 小寺, 野口, 木村, 誌島の各委員。議事: 設計部門の改訂について協議し, 次回は10月17日に開催のこと。

◎各種講演会

1. 第5回橋梁・構造研究発表会(幹事 土木学会)

課題: 「構造物の軽量化」に関する研究発表

期 日: 昭和 33 年 9 月 5 日

会 場: 日本建築学会 3 階 会議室

講演数: 14 題, 特別講演 1 題

聴講者: 約 160 余名, 会場満員の盛況であった。

2. 第8回応用力学連合講演会(幹事 土木学会, 日本物理学会)

期 日: 昭和 33 年 9 月 6, 7, 8 の 3 日間

会 場: 東京大学工学部 2 号館

講演数: 第 1 部 材料力学等 69 題

第 2 部 流体力学等 35 題

第 3 部 熱力学等 10 題

第 4 部 一般力学等 42 題

特別講演 3 題

計 159 題

聴講者: 第 1 日 4 室 267

第 2 日 午前中 4 室, 午後特別講演 205

第 3 日 3 室 98

延 計 570 名

3. 第2回地震工学研究発表会

期 日: 昭和 33 年 9 月 9, 10 両日

会 場: 土木学会会議室

講演数: 第 1 日 土質工学 3 題

ダ ム 5 題

港 湾 6 題

特別講演 1 題

第 2 日 橋 梁 4 題

特別講演 2 題

計 21 題

聴講者:

第 1 日 第 2 日

学 校 28 19

建 設 省 11 8

| | | |
|------|-----|-----|
| 運輸省 | 25 | 5 |
| 国 鉄 | 7 | 8 |
| 電力会社 | 9 | 2 |
| 通産省 | 1 | |
| 東京都 | 1 | |
| 交通営団 | 8 | 4 |
| 建設会社 | 5 | 2 |
| 計 | 95名 | 48名 |

支 部 だ よ り

◎北海道支部

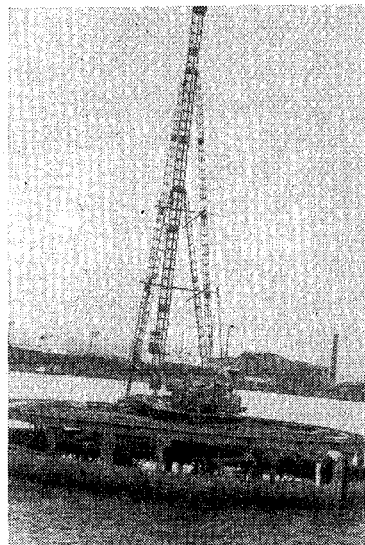
33 年度第 1 回見学会(昭.33.8.6) 北海道支部第 1 回見学会は近來ますます発展の度を加えている室蘭港の港湾工事と途中の道路工事を目的に行なわれた。

予定された定員 50 名に対し現地参加を加えると 90 余名におよぶ多数の参加をえて, 午前 7 時バスで札幌を出発, コースを 36 号線にとつて一路室蘭へ向つた。道々室蘭開発建設部高山課長の道路整備 5 カ年計画および工事施工状況と, 鹿島建設榎本氏の室蘭御崎埠頭建設工事概要をききながら, 室蘭着。まず御崎埠頭を見学する。これは本道では最初の鋼矢板セル式岸壁工事で, 初めて見る会員も多かったが, 陸上での詳細な説明と, 高効率を誇る打込み設備の模型は大いに理

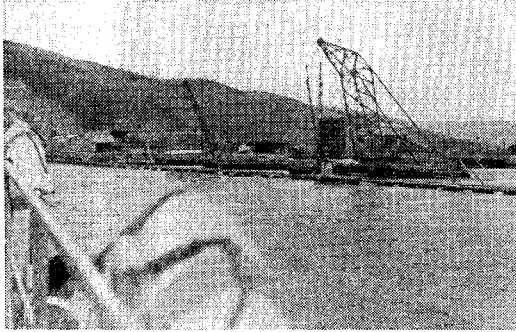
鋼矢板セル式岸壁工事, 打込み設備模型(御崎)(鹿島建設KK)



鋼矢板セル式岸壁工事(御崎)(鹿島建設KK)



プレバクトコンクリートによる石炭積み込み岸壁ケーソン工事（本輪西）
（西松建設 KK）



解を助けてくれた。港内遊覧船で工事現場を間近かに見学、そのまま本輪西方面へ向い西松建設 KK 施工のプレバクトコンクリートによる石炭積み込み岸壁ケーソン工事を見学した。現場および陸上で説明をきき、種々質疑があつたのち、陣屋町海水浴場で昼食をとつた。

帰路は昭和山を左に、洞爺湖畔の勝景をバスガイド嬢の名調に導かれ中山峠に至り、原始林を眼下に心づくしのビールで夏宵の一刻をおくつた。帰路の車中は強行軍の疲れもなく、なごやかに第 1 回見学会を終つた。

◎東北支部

昭和 33 年度夏季講演会

時と所：9月1日 仙台商工会議所ホール

講演：1) ブラジルにて見聞した土木事情について
パシフィックコンサルタンツ 河野康雄
2) 中近東の建設事情について

日大教授 工博 鈴木雅次

映画：デイヴィダークの工法による長大橋の架設

聴講者：150 余名

◎中国四国支部

昭和 34 年度通常総会および年次学術講演会開催の件、8月21日付で了承するとの返事に接した。

◎関西支部

(1) 役員会の開催

1) 第 5 回幹事会（昭.33.8.23）比叡山延暦寺宿院
出席者：石原、近藤、石田、伊藤、大島、藤沢、
松尾、八木。

2) 第 6 回幹事会（昭.33.9.15）中央電気倶楽部
出席者：石原、近藤、石田、伊藤、大島、松尾。

(2) 支部創立 30 周年記念座談会（昭.33.9.15）

場所：中央電気倶楽部

出席者：前支部長 高西 敬義、福留 並喜、
林 千秋、原口忠次郎、
岩崎 雄治、和田 重辰、
泉谷平次郎、鈴木角一郎、
浦上 衛門、稻垣 茂樹

前役員 大島 太郎、大塩政治郎、

柴田辰之進、光井 三郎、
北村 正之、武田 良一、
三好 宗逸

前主事 中川 辰夫

その他 井部 勇一、宮内 義則、
浜田 常雄、三宅静太郎、
浅田喜久男、寺島 正喜

会長 米田 正文

常議員 玉井 正彰

現役員 石原藤次郎、川崎 精一、
神田 一雄、広瀬 可一、
山本 芳樹、吉田 喜市、
片岡 武、室田 明、
近藤市三郎、石田 聖、
伊藤 富雄、大島 哲男、
松尾新一郎、片山 信雄

資料：1) 歴代役員名簿

2) 累年予算決算および会員数調査

3) 累年各種行事一覧表

4) 関西支部規程、内規

関係学会だより

◎日本機械学会

1) 東京秋期講演大会 10月27日～29日 横浜国立
大学工学部本館

2) 宇部臨時大会 11月6日～8日 山口大学工学部

◎第 2 回粘土科学討論会

期日：12月5日～6日

会場：農林省農業技術研究所講堂

講演およびシンポジウム：

1) 一般研究発表

2) シンポジウム Allophone 問題

講演申込：10月15日まで（お知らせ参照）

◎日本学術会議第 27 回総会 10月22日～24日公開を
もつて開催、自由傍聴を要望された。

◎日本規格協会第 1 回標準化大会 10月23日～25日
（第 1 日）23 日、（第 2 日）24 日とも研究発表会、東京
産経会館において、（第 3 日）25 日見学会。

◎国際技術研究所フランス・ベント社技師リクアル氏
講演会 10月1日国鉄 8 階映写室において、ベント社製
の大口徑高速掘削機に関する講演会、映写会。

◎港湾荷役機械化協会 10月2日～3日講演会、国立科
学博物館講堂において、10月1日～7日展示会、上野公
園不忍池畔において。

◎1958 年国際溶接会議

国際溶接学会（Interal Institute of Welding...I.I.
W...）1958 年年次大会は 6 月 28 日より 7 月 5 日までオ
ーストリアのウィーンで開催され、日本学術会議からの

代表として成瀬教授(土木学会), 木原教授(造船協会), 高木教授(電気学会)が出席した。

6月30日, 華麗なラートハウスにおける開会式はウィエナ交響楽団によるモツアルトの魔笛前奏曲に始まり, 会長ゲレラ氏, その他の演説につづいて, 本年度の特定課題「化学工業における溶接」に対する加盟各国の研究が報告された。7月1日から5日までは各部会ごとの研究課題の討議および, 個人研究の発表があつたが, 部会番号とその内容はつぎのとおりである。

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. ガス溶接と切断 | 9. 金属の溶接特性 |
| 2. アーク溶接 | 10. 残留応力と応力除去 |
| 3. 抵抗溶接 | 11. 圧力容器, ボイラー, パイプ |
| 4. 文 献 | 12. 特殊アーク溶接方法 |
| 5. 試験測定 | 13. 疲労試験 |
| 6. 用 語 | 14. 溶接指導 |
| 7. 規 格 | 15. 溶接設計および施工に関する基本 |
| 8. 衛生安全 | |

その会期中にはウィーン合唱団, ウィーンの森, シェン

ブルネン離宮, その他多くの名物名所の案内が盛り込まれていたが, おおむね多忙で見物の時間なく, 7月5日の Governing Council (各国代表者会議) で可決された重要事項は, 1) 日本から副会長を選出すること, 2) 1959年大会はユーゴスラヴィア国で開催すること, であつた。ちなみに本年は国際溶接学会設立 10周年に当るだけにきわめて盛大に会議と各種招待が行なわれた。

7月7日から15日にわたる9日間はオーストリア国内の著名な工場や観光地をまわる見学旅行に当てられ, その中で土木技術者にとつて最も有益であつたのは, チロル地方のアルプス(海拔2500m)氷河下流をせき止めたアーチダムの数々および発電所(カプラン発電所), 日本でいえば北アルプス級の山岳を縦横断する観光山岳道路ならびに一般道路の完備などであつて, 観光バスが60~100kmの时速で走れるカ所が多かつたのは特記に値した。(成瀬 記)

新しい建設工法

去る8月27, 28日の両日, 早稲田大学に約750名の受聴者を集め標記の夏季講習会が行なわれ非常な盛況のうちに終了いたしました。当日受講されなかつた方々の御便宜のために, 使用したテキストを目下頒布しております。図表・写真を多くとり入れ, わかりやすく解説してありますから, 希望者は至急お申込み下さい。

体 裁 : B5判 214 ページ, 8ポイント一段組, 上質紙使用, 図表・写真多数

頒 価 : 一般 350 円 (〒35 円) 会員特価 300 円 (〒35 円)

内 容 : 新しい鉄道橋, 新しい道路橋, 土木工学分野におけるラジオアイソトープの利用について, 航空写真測量の最近の進歩とその利用, 真空コンクリート工法, パイプビーム構造とその設計について, テトラポッド工法について, セルラー・バルクヘッドによる岸壁工法, パイプフロテーション, 路床路盤の安定工法, 道路施工機械

会 員 現 在 数 (昭.33.9.30 現在)

| 名譽員 | 賛助員 | 特1級A | B | C | 特2級 | 特3級 | 正員 | 准員 | 学生員 | 合計 | 増加 |
|-----|-----|------|----|----|-----|-----|------|------|------|-------|----|
| 26 | 30 | 16 | 12 | 70 | 115 | 102 | 8864 | 4320 | 1016 | 14571 | 41 |

昭和 33 年 9 月分入退会報告 (昭.33.9.1~9.30)

1. 入 会 61 名 (正 48, 准 3, 学生 9, 特 3 級 1)
2. 退 会 20 名 (正 11, 准 7, 特 3 級 2)
3. 転 格 11 名 (准より正へ 10, 正より准へ 1)

正員 金子 寛君 都目黒区下目黒3の498

昭年 33 年 8 月 9 日逝去

正員 杉森 文彦君 札幌市南 12 条西 16 丁目

昭年 33 年 9 月 24 日逝去 享年 69 才

昭和 33 年 10 月 10 日印刷

昭和 33 年 10 月 15 日発行

土木学会誌 第 43 卷 第 10 号

印刷者 大沼正吉

印刷所 株式会社 技報堂 東京都港区赤坂溜池 5 番地

編集者 国分正胤

発行所 社団法人 土木学会 東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)

定 価 100 円

振替 東京 16828 番

電話 (35) 5130・5138・5139 番